



## ☆☆ニュースレター☆☆

第114号  
発行日:2013. 11. 12  
(since 2006.2.1)

このニュースレターはメールを登録している正会員および賛助会員ほか当団体が了承した希望者に、随時配信しております。配信中止を希望のかたは右記までご連絡ください。

NPO 法人・クライネスサービス

会長: 稲垣 正彦

発行責任者: 事務局長・眞柳 和俊

千葉県佐倉市宮ノ台3-2-2

npo-kleines-463@catv296.ne.jp

TEL/FAX: 043-463-1337

<http://www.catv296.ne.jp/~kleines/>

### ◎「青色防犯パトロール実施者情報交換会」

11月5日佐倉市役所で開催された交換会参加者からのレポートです。

青パト車を運用し防犯パトロールを実施している10団体が参加しました。市役所防災防犯課長と佐倉警察署からの挨拶に続き同巡査部長から、パトロール活動をする場合の注意事項の話がありました。続いて参加者を6班に分けて四つのテーマ―①交通事故防止の注意点、②事件・事故を目撃、不審者に遭遇した場合の対応、③情報の効果的な活用法、④パトロールコースの設定方法―で討議した後、班ごとに議論を整理、夫々の代表者が発表しました。

共通した意見の一つとしては、パトロールの際に行き会った人には積極的に声かけを心がけるということでした。私たちが月初めのパトロールで唱和している「パトロール行動マニュアル」の内容は大変重要であることを再認識しました。(加藤正夫)

### \*事務局から\*

「芋煮会」:11月9日(土)15時から本部において、秋恒例となった「芋煮会」が実施されました。曇りがちの少し肌寒い天気でしたが、



初代から現在までの会長3名、女性会員5名を含む30名が参加。

イベント担当の女性らが中心となり心づくしで用意した温かい料理や自宅の庭でとれた柿・里芋など多くの差し入れをいただきながら、健康のありがたさや政経の話題、趣味やわが街のことなどについて大いに語ら

い交流を深めました。今回参加できなかった方は是非次回にどうぞ。



### 会員投寄稿 -29- トルコ紀行 (渡邊聡子)

親日家が多いと言われる国トルコ。遠い昔和歌山県串本沖でトルコの遭難船を日本が救助したことは美談として語り伝えられていますが、イラク・イラン戦争ではテヘラン在住邦人が避難帰国するさい、どの航空会社も躊躇したときトルコの首相が勇気ある決断で特別便を出し200人余りが無事日本に帰国できたのです。後にその日本人が住んでいた場所は攻撃され、時の首相小泉純一郎は涙ながらに感謝の言葉を述べた出来事もあります。

また、今回はオリンピック開催地候補の対抗馬であったのに、現地では日本の勝利にあちこちでおめでとうの言葉をもらいました。正直に言えば、トルコはオリンピックを開くにはまだまだのようでした。古い歴史に輝く遺跡が多く観光客を魅了していますが、以下訪れた主な場所をご紹介します。

・ドイツ人が発掘したという「トロイの古代遺跡」

・ベルガモンの「アクアポリス」・エフェソスの「ハドリアヌス神殿」「大劇場」--ここで私たち10人が坂本九の“上を向いて歩こう”を歌うとうまくハモリ、観光客から拍手をもらいいい気分でした。

次(2)頁へ続く

- ・「パムッカレ」--広大な一面の真白な石灰棚で温泉も湧き出ている。
- ・「コンヤ」--古い歴史があるイスラム教の街。イスタンブールと違い、女性はスカーフを巻いていた。
- ・「カッパドキア」--トルコと言えはすぐ頭に浮かぶ地。写真で見るキノコ状の自然石の名前だと思い込



んでいきましたがその地域の名前でした。バスが高台に着いて、見渡せば360度。茶色い岩石の砂漠状の景色が見える中、3～5メートルはあるキノコ状やラクダ型、ナポレオンが馬にまたがっている姿に例えられる奇岩が立っている。一瞬時が止まり何千年？前の昔を空想する心境に。火山の噴火によってできた大地に自然の気候がもたらしたもの。今もこの奇岩の洞くつで暮らす人々もおり、そこを訪問することができました。

そして、最終観光地イスタンブール。旧市街と新市街に分かれ

ており、旧市街は歴史地区としてユネスコの文化遺産に登録されています。

- ・「トプカプ宮殿」--博物館の中には世界2番目に大きいという80カラットのダイヤモンドが展示。
- ・「アヤソフィア」--1600年前の建物ですが堂々と気品に満ちた姿でした。
- ・「ブルーモスク」--イスラム教信者お祈りの場。見学者も女性はスカーフを被らなければなりません。
- ・「地下宮殿」--ロマンあふれる宮殿の中には広い地下貯水池を支える300本余りの大きな柱があり、オレンジ色の鈍いライトに照らされた水面の光景は幻想的で、1963年に制作された映画、007「ロシアより愛をこめて」の撮影に使われたそうです。私も大好きな映画でした。



この他にも歴史に残る遺産物は数多く、トルコの旅も広い世界の中のひとコマとして忘れないようにと書き留めました。(渡邊記 11/10) 写真(左上:カッパドキア「ラクダ型」の奇岩 右下:地下宮殿)

**\*新入会員紹介:** 「北條 義武(ほうじょう よしたけ)さん」(10/29 入会、ユーカリが丘4丁目在)  
『今年1月に退職し、ご近所の知人からの勧めもあったので入会しました。どうぞよろしく』

### ～閑話～

だから...

わが街に住む知人Kさんから聞いた話です。高級で知られるフランス「バカラ」製グラスを夫の歯磨き用にと洗面台に出しておいたところ、あろうことか夫はそれを洗面台に落としてしまったという。驚いたことに壊れたのは洗面台のほうでヒビが入ったらしい。グラスの底が分厚いとはいえ、洗面台が壊れたというのは俄かに信じがたい話ではあった。以下は後日談です。



‘壊れた’洗面台の修復も難しく、業者に尋ねたら付属全部を交換すれば数十万円から最大100万円もするとの返事。グラス1個がせいぜい1、2万円ぐらいなのに交換費用はいくらなんでも高すぎるのでと放っておいたら、ヒビ割れ部分にはカビが生えて大弱り。取りあえず近所の店から買った150円のコップに替えたらしい。それにしても、両手の水で口をすすぐ人もいるというのに歯磨き用に「バカラ」グラスを使うという発想に、居合わせた誰もが「バカな、だから、無茶なことをしてはい

けませんよ！」と呆れるやら同情するやら。(K記 2013/10) 写真は記事内容と別物の「バカラ」